

### 3. プログラムのスク립ト・原稿案

#### 「見て、感じて、楽しむ夏秋草図屏風」

##### 【プログラムのねらい】

屏風を間近に見る体験を通して、文化財に親しんでもらう

- ・ 博物館のガラスケースの中の展示とは違い、自分と同じ高さに置いた生活の中の屏風を見る
- ・ 色やかたち、配置に注目してじっくり見る
- ・ 感じたことや発見したことを言葉にする
- ・ 見ること、想像することを楽しんでもらう

（風神雷神図からイメージをふくらませて夏秋草図を描いた酒井抱一のように）

- ・ 感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れる

##### 【ポイント】

- ・ 文化財に興味を持ってもらい参加者が自ら進んで博物館へ行く、調べてみるという行為につながるように構成しています。
- ・ 文化財を見て感じることを通じて身近に思ってもらうことが目的のため、作品の名前や情報（作者や制作年代）などは最初に話さず、プログラムの途中にいれています。
- ・ 持ち帰り用のミニ屏風の裏に、調べ学習に対応できる最低限の作品情報をいれています。



雷神図



風神図



秋草図（風神図の裏側）



夏草図（雷神図の裏側）

青文字：全体の動き、講師の動き、参加者の動き

赤文字：目的にあわせ、目的や問いの内容などアレンジしてお使いください

緑文字：講師の方への補足説明

事前準備	・屏風は広げておく（参加者には夏秋草図側のみが見えるようにする） ・カーテンを閉め、蛍光灯を消し、屏風照明（推奨：赤）をつける
① 挨拶・導入 (3分)	<p style="text-align: right;">（夏秋草図側の屏風全体が見える位置に参加者に座ってもらう）</p> <p><b>ごあいさつ</b></p> <p>今日のプログラム・授業は「（プログラムや授業の内容など）」です。 ※例えば「絵をじっくり見て、みんなでお話をする授業」など、授業やプログラムの内容を入れてください。</p> <p style="text-align: right;">（参加者の位置はそのまま）</p> <p><b>東京国立博物館とレプリカ（複製）について</b></p> <p>みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです。 本物は東京国立博物館にあって、ガラスケース越しに見られるときもありますが（※）、今日はみなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを東京国立博物館から送っていただきました。 ※展示予定は東京国立博物館のWEBサイトをご確認ください</p> <p>東京国立博物館は日本で一番古い博物館で、絵やよろいかぶとなど、古くから守り伝えられてきた日本やアジアの貴重な美術品、土偶や土器のように土の中から発掘されたものを守り、伝えている博物館です。こういったものをまとめて「文化財」と呼んでいます。（「文化財」文字パネル掲出）</p> <p>今、みなさんの目の前にある絵の本物も文化財のひとつです。複製品・レプリカといっても、最新のデジタル技術と、京都の職人さんの伝統の技が使われている、本物と同じように作られた貴重な（大切な）作品です。この後、近くでみてもらいます。触らないように気を付けて近づいてくださいね。</p> <p style="text-align: right;">合計 3分</p>
② 工程の説明 (1分)	<p style="text-align: right;">（参加者の位置はそのまま）</p> <p><b>今日することの説明</b></p> <p>では、今日は「（プログラム実施の目的やねらいなど）」を見て、知って、感じて、楽しむがテーマです。次の順番で絵を見ていきます。 ※例えば「日本で暮らしていた人たちが作った美術」など、授業やプログラムのねらいを入れてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まず、屏風について知りましょう</li><li>・次に、描かれているものをじっくりみてみましょう</li><li>・一番最後にまとめの時間です。</li></ul> <p style="text-align: right;">合計 4分</p>

<p>③ 照明 (5分)</p>	<p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p><b>びょうぶの色の変わり方をみる</b></p> <p>それでは絵を見るための灯りについてお話します。この作品が描かれた時代には、電気はありませんでしたので、明るいうちは太陽の光で、暗くなると油に火をともし行燈（あんどん）やろうそくの灯りで生活していました。</p> <p>今、皆さんが見ている灯りが、作られた時代の灯りに近い色と置き方です。</p> <p>それでは点いている屏風の照明を消して、太陽の自然な光で見てください。いま見えている見え方や色と違って見えるかな？1分間、じっくり見てみましょう。</p> <p style="text-align: center;">(屏風照明を消してカーテンを開ける、1分静かに時間をとる)</p> <p>みなさん、どうでしたか？見え方が違ったのではないのでしょうか。</p> <p>それでは電気（実施会場の照明）をつけます。(会場の照明をつける)</p> <p style="text-align: right;">合計 9分</p>
<p>④ 解説 (3分)</p>	<p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p><b>屏風を知る</b></p> <p>では、まず屏風についてお話します。</p> <p>紙を貼ったパネルをつないだものを、「屏風」と呼びます。この作品は、右側と左側、それぞれに2枚のパネルがつながって作られています。(6枚のものもあります)</p> <p>→Q. 皆さん、屏風って知っていますか？見たことがありますか？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※意見を聞いていく際は、発言内容をリフレーズして全員に意見を共有する</p> </div> <p>※「記者会見」、「結婚式」などの回答が出ることが多いです。サイズは違いますが、「お雛様の後ろに立っているもの」も多いです。小学生だと、「おじゃる丸君の後ろにありませんでしたか？」など問いかけると思いだす参加者が多いです。こういった意見を交えながら、次の質問に進むとスムーズに進行します。</p> <p>※「家にある」、「使ったことがある」という意見が出たら、「どういうときに使いましたか？」など聞いてみてください。</p> <p>そのうえで、「屏風はおうちにある人もいますが…」という導入で、次の質問の回答部分に進んでください。</p> <p>→Q. おうちにある人、使ったことある人（挙手してもらおう）</p> <p>なかなか普通のおうちでは使いませんね。</p> <p>屏風は今の家には（あまり）ありませんが、昔の人はおうちの中などで使っていました。</p>

	<p>このパネルを見てください。<b>（「屏風」文字パネル掲出）</b></p> <p>屏風という漢字を見てもらうと、風という字と屏という字でできています。屏という字はさえぎるという意味です。つまり「風をさえぎる」という意味があります。</p> <p>次のパネルを見てください。<b>（「屏風」絵画写真パネル掲出）</b></p> <p>昔の人が屏風を使っている場面が出てきました。屏風は、このように折り曲げて床に置き、ついたてや、パーティションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われ、ときには、アウトドアで使うこともありました。写真は、今、目の前にある屏風とは置き方が違いますね。</p> <p>屏風は生活の中で使っていた道具だったので、いろいろな置き方ができるつくりになっています。この屏風は、反対側にも折れるつくりで、丸く囲むように置いたり、四角く置いたり、さまざまな置き方ができます。</p> <p style="text-align: right;"><b>合計 12 分</b></p>
<p>⑤ 夏秋草図の鑑賞 (20 分)</p>	<p style="text-align: right;"><b>（参加者の位置はそのまま）</b></p> <p><b>作品をいろいろな角度からじっくり鑑賞し、夏秋草図の表現について理解する</b></p> <p>では、描かれているものについて見ていきましょう。</p> <p>まずは、近くによってじっくりと屏風を見てください。気になるところ、好きなところをみつけてみましょう。</p> <p style="text-align: center;"><b>（参加者を屏風の近くまで案内、1 分たったら左右入れ替わりの声掛け）</b></p> <p>今日は私だけがお話をするのではなく、これからみなさんにもいろいろな意見を言ってもらいたいと思います。お友達の意見も聞いて、この屏風の良いところや素敵などところをたくさん見つけてくださいね。</p> <p style="text-align: center;"><b>（参加者はもとの位置に戻る、またはその場で、など臨機応変に対応）</b></p> <p><b>参加者の言葉を引き出すための問いかけ</b></p> <p>→Q. このびょうぶには何が描かれているように見えますか？</p> <p>→Q. どんな音が聞こえてきそうですか？</p> <p>→Q. 天気や気温はどれくらいだと思いますか？</p> <p>→Q. 季節はいつごろだと思いますか？</p> <p>→Q. 何時くらいの風景だと思いますか？</p> <p>→Q. 自分がこの風景の中を歩いているとしたら、どんな服装だと思いますか？</p> <p>※参加者から意見を聞いた後に続けて「どのあたりを見て、そう感じたか」「なぜそう思ったか」を尋ねると、いろいろな感じ方を学ぶ機会にもなります。</p> <p>どんな季節に見えるかな、とか何時くらいかな、とか、みなさんの意見を教えてもらいましたが、いろいろな意見がありました。</p>

(屏風全体が見えるような位置に参加者に座ってもらう)

### 夏秋草図屏風についての解説

この屏風は「夏秋草図屏風」といいます。酒井抱一という人が描きました。江戸時代・19世紀に描かれた作品です。

まず、右側の屏風のお話をします。右上の青い(群青)部分は、夕立のあとの、庭にたまった水の流れをあらわしています。次に植物を見てみると、夕立の雨の重さやいきおいで草花が下を向いてしまっているように描かれています。実は、激しい雨の後の様子を、雨の粒を描かずに草花の形であらわしています。

→Q. 夕立があるのはいつ頃の季節が多いですか？

※「春から夏」や「夏」といった回答が上がってくると思います。

そう、右側の屏風に描かれた風景は夏で、夏の草やお花が描かれています。

※必要があれば、このスクリプトの最後に載せた参考画像(花名一覧)を見て、その場所を指し示しながら解説してください。

- ①薄(ススキ) → 花穂(はなほ)が開く前の夏の状態
- ②昼顔(ヒルガオ) → ありふれた草花でめずらしくないもの
- ③百合(ユリ) → 葉のかげに咲く、表に出ずにひっそりと咲いている(粋の文化)
- ④女郎花(オミナエシ) → 秋の七草、花が開ききっていないので夏を表す
- ⑤仙翁(センノウ)/ガンピ → ナデシコ科の赤い花

では次に左側の屏風を見てみましょう。右の屏風と比べると、左側の屏風に描かれた草花の様子はどうでしょうか。例えば、風を想像して見てください。どちらから吹いていそうですか？※回答を待つ

そう、皆さんから見て右から左に、風が吹いているように見えます。右側の屏風は雨の後の様子が描かれていましたが、左側の屏風に描かれている草花は強い風に吹かれている様子が描かれています。目に見えない風の姿を、草花のかたちを借りてあらわしています。

→Q. 強い風が吹く季節(台風)は、いつ頃ですか？ ※回答を待つ

実は秋なんです。左側には秋の草花が描かれています。

※必要があれば、このスクリプトの最後に載せた参考画像(花名一覧)を見て、その場所を指し示しながら解説してください。

	<p>①葛（クズ）→風で葉が裏返っている、秋の七草・秋の季語          ②薄（ススキ）→花穂（雄花〈おばな〉）が出ている（＝花ススキ）          ③蔦（ツタ）→紅葉した赤い葉が空に舞い上がる（青いツタの実も描かれる）          ④藤袴（フジバカマ）→秋の七草・秋の季語</p> <p>ですので、右と左を合わせてこの屏風は「夏秋草図屏風」と呼ばれています。（※正式な登録名称は「夏秋草花図屏風」です。）</p> <p>実はこの絵、ある絵の裏側に描かれた作品です。この裏（＝表）にも実は絵があります。それでは表の作品も見てみましょう</p> <p style="text-align: right;">合計 32 分</p>
<p>⑥ 風神雷神図の鑑賞/解説 (5分)</p>	<p style="text-align: right;">(参加者を誘導し裏に回る)</p> <p><b>風神雷神についての解説</b></p> <p>右側に風の神さま・風神、左側に雷の神さま・雷神が描かれています。風の神様は風の袋を手にもって、風を起こそうとしています。雷の神様は手にバチを持って周りにある太鼓で雷を起こします。風や雷といった、自然の大きな力を、神様の姿を借りて描いています。この絵は「風神雷神図屏風」といいます。今から 350 年くらい前に尾形光琳（おがたこうりん）という人が描いた作品です。</p> <p>※補足情報：江戸時代・17 世紀に俵屋宗達（たわらやそうたつ）という画家が描いた国宝「風神雷神図屏風」が京都・建仁寺にあり、それを光琳が写したものです。</p> <p>→Q. 右側の風の神様の裏側は、どんな風景が描かれていましたか？          ※風が強い秋の風景</p> <p>→Q. では左側の雷の神様の裏側は、どんな風景でしたか？          ※雨が降った後の夏の風景</p> <p>表と裏を比べてみると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風の神さまの裏に、風に吹かれている秋草の様子 共通点：風</li> <li>・雷の神さまの裏に、雨に打たれた夏の草花の様子 共通点：雨</li> </ul> <p>が描かれていて、風や雨など表と裏がつながっていることがわかります。</p> <p><b>表と裏の関係についての解説</b></p> <p>表の絵は尾形光琳という人が、裏の絵は酒井抱一という人が描いたとみなさんに</p>



言いました。裏の草花が描かれたのは、表の風神雷神が描かれたおよそ 100 年後のことです。裏側を描いた酒井抱一は、尾形光琳にあったことはありません。今日、皆さんは裏側の絵をじっくりと見ましたが、裏の作者の酒井抱一は、表の絵をじっくり見て、知って、楽しんで、考えて、裏側の絵を描いたのだと思います。天空にいる神様が起こした雷や風で、きっと地上の様子を想像したのでしょう。雷の神さまが天空で降らせた雨で、裏の夏の草やお花は雨に打たれてしなだれて、風の神さまが天空で起こした風で、歌の秋の草やお花は吹かれているのでしょう。

表に風神雷神の絵があることを知って、先ほど見た裏を思い出してみると、そのほかにも共通するものや、反対の意味を持つものがあるかもしれません。

例えば、

- ・表の金と裏の銀（「きらめく素材」という面では共通）
  - ・天空の神さまと、地上のいつでも見ることができそうな風景
  - ・ずっと生きていそうな神さまと、いつか枯れてしまう草花
- という反対の意味を見つけることもできます。

**（以下、時間があれば）**

作品をいろいろな角度からじっくり鑑賞し、風神雷神図の表現について理解する  
今度は、表の絵もじっくりと見てください。気になるところ、好きなところを考えながら見てみましょう。

**（参加者を屏風の近くまで案内、1分たったら左右入れ替わりの声掛け）**

**（参加者はもとの位置に戻る、またはその場で、などご自由にアレンジください）**

- Q. 気になったところ、好きなところがありますか？
- Q. ふたりの神様は何を思っているように見えますか？
- Q. 何をしているように見えますか？
- Q. どんな音が聞こえてきそうですか？
- Q. 風はどのように吹いているように見えますか？

※参加者から意見を聞いた後に続けて「どのあたりを見て、そう感じたか」「なぜそう思ったか」を尋ねると、いろいろな感じ方を学ぶ機会にもなります。

いろいろな意見がありました。

裏側の夏秋草図屏風を描いた酒井抱一も、今の皆さんのように風神と雷神を見ていろいろなことを想像し考えて描いたのだと思います。

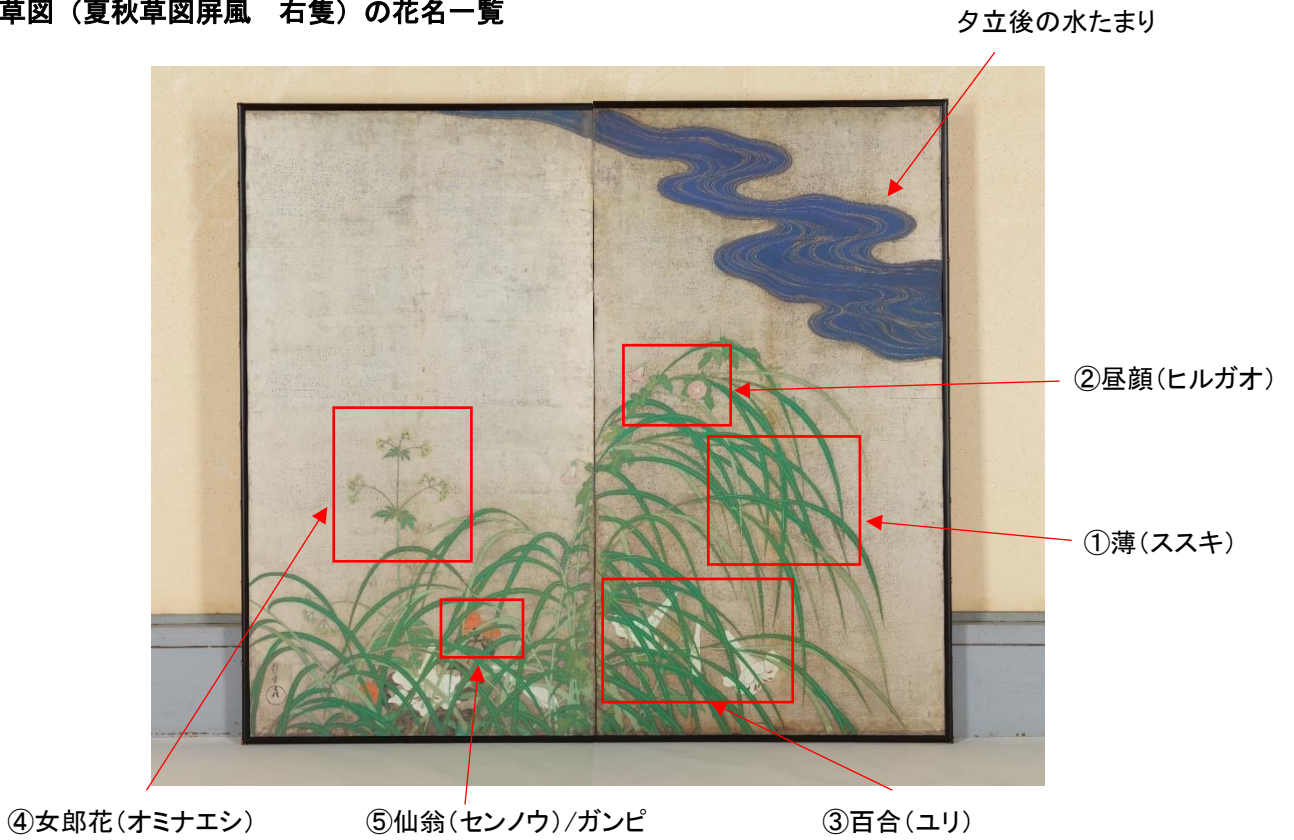
**合計 37 分**

<p>⑦ まとめとアンケート (8分)</p>	<p style="text-align: right;">(参加者の位置はそのまま)</p> <p><b>まとめ</b></p> <p>屏風の裏側を描いた酒井抱一のように、いろいろな作品を見るとき、「どんな風景かな」とか、「何を考えているんだろう」など、比べてみたり想像してみたりすると、それぞれの作品の面白いところに気付いたり、楽しくみることができると思います。そのほかにも、「もしこの作品の裏に絵があったら」と想像して、見た作品へのお返事のように自分で絵をかいてみても面白いですね。</p> <p>これから博物館や美術館に行くこともあると思うので、その時は今日のプログラム(授業)を思い出して、いろいろな作品を見て楽しんでくれると嬉しいです。</p> <p><b>ひとりで見る時間 + アンケート</b></p> <p>最後に、表の屏風も昔の灯りで見て終わりにしましょう</p> <p style="text-align: right;">(カーテン閉めて屏風照明 ON)</p> <p>「(プログラムや授業の内容など)」授業はこれでおしまいです。 どうもありがとうございました。 ※ごあいさつで伝えた授業やプログラムの内容を入れてください。</p> <p>(参加者用アンケートの記入) (持ち帰りミニ屏風セット配布)</p> <p>※配布する際は「今日見た屏風のミニチュアをみなさんにお渡ししますので、ぜひお家で飾ってみてくださいね。」など伝えてください。</p> <p style="text-align: right;">合計 45分</p>
-----------------------------	---

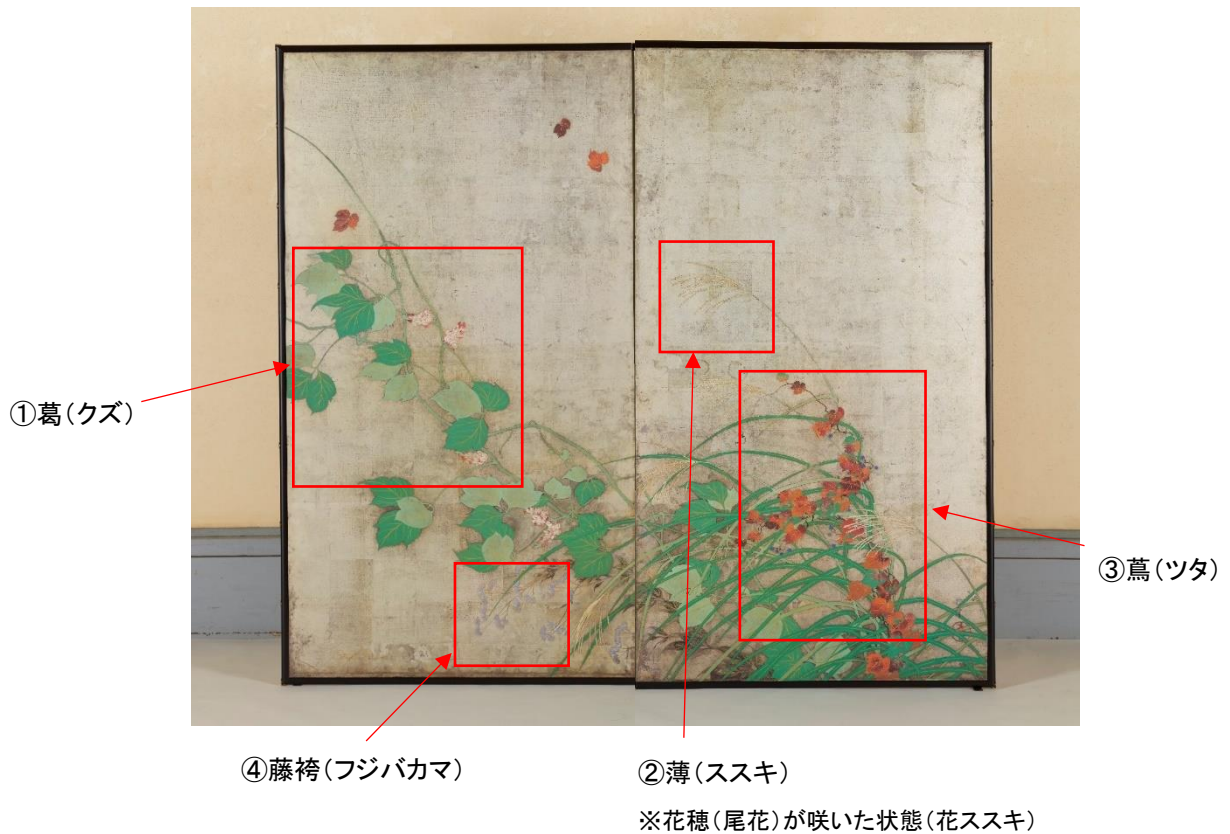
※合計 45分



夏草図（夏秋草図屏風 右隻）の花名一覧



秋草図（夏秋草図屏風 左隻）の花名一覧



### 【作品を知るための参考文献】

#### ○風神雷神図/尾形光琳について

1. 仲町啓子 2021 『もっと知りたい 尾形光琳』 東京美術
2. 河野元昭 2015 『別冊太陽 232 尾形光琳』 平凡社
3. 仲町啓子 2012 『すぐわかる 琳派の美術 改訂版』 東京美術

#### ○夏秋草図/酒井抱一について

1. 玉蟲敏子 2008 『もっと知りたい酒井抱一 生涯と作品』 東京美術
2. 玉蟲敏子 1994 『絵は語る (13) 夏秋草図屏風 酒井抱一筆 追憶の銀色』 平凡社
3. 仲町啓子 2010 『別冊太陽 232 酒井抱一』 平凡社

### 【作品の情報】

所蔵先：東京国立博物館

指 定：重要文化財

制作年：風神雷神図 江戸時代・18世紀

夏秋草図 江戸時代・19世紀

作 者：風神雷神図 尾形光琳（おがたこうりん）

夏秋草図 酒井抱一（さかいほういつ）

大きさ：風神雷神図・夏秋草図 各隻 高さ164.5×幅181.8

※本物は作品保護のため、昭和49（1974）年に表の風神雷神図と裏の夏秋草図を分離しています。

### 「ColBase：国立文化財機構所蔵品統合検索システム」

<https://colbase.nich.go.jp/>

4つの国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）と一つの研究所（奈良文化財研究所）の所蔵品を、横断的に検索できるサービスです。

（風神雷神図屏風）

[https://colbase.nich.go.jp/collection\\_items/tnm/A-11189-1?locale=ja](https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-11189-1?locale=ja)

（夏秋草図屏風）

[https://colbase.nich.go.jp/collection\\_items/tnm/A-11189-2?locale=ja](https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-11189-2?locale=ja)

この URL から作品の高画質な画像や音声ガイドのダウンロードができます。